

「平成28年度決算認定に係る施策評価等に関する提言」への対応状況

飯田市

「平成28年度決算認定に係る施策評価等に関する提言」への対応状況

| 基本目標 | 委員会 | 主管部局 | 「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言 | 提言への対応状況の説明 | 関連する主な30年度戦略 | |
|------|--------------------------|------|--------------------------|---|---|--|
| | | | | (考え方や事業計画・特筆すべき事項について記載) | 戦略名 | |
| 8 | 新時代に向けたこれからの地域経営の仕組みをつくる | 総務 | 市民協働環境部 | <ul style="list-style-type: none"> 市民の満足度を計測する仕組みを検討願いたい。 まちづくり委員会と地域協議会の役割の明確化、検証を実施されたい。 地域自治を守り育むための仕組みづくりを研究する中で、併せて市役所の在り方(役割)にも取り組まされたい。 市の方針、自治のあるべき姿を地域と共に学び、住民組織の実情を語り合い、住民組織と一緒に課題解決にあたる姿勢(市政)に務められたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎世論調査や住民と接する様々な機会を通じて、住民の生の声を直接聞き、満足度や課題を把握することに引き続き努めます。 所長会PJの地域自治組織制度検証分科会において、地域協議会のあり方について検証を始め、地域協議会会長会での意見集約や所長へのアンケート調査を実施しました。現状と課題を整理し、有識者の助言も参考としながら役割の明確化に向けて見直しを進めます。 地域自治組織制度の検証の他、田舎へ還ろう戦略の構築、中山間地域振興の取組を進める中で、地域の取組が有効に発揮されるためには市役所がどのような役割を果たす必要があるのか、併せて検討します。 市政懇談会は、地域と共に学び、語り合い、一緒になって課題解決にあたる場の一つと考えていますが、地域自治の姿については、一番身近で接している自治振興センターを中心に、住民組織の実情を語り合い、住民組織と一緒に課題解決にあたるよう努めます。 | ③地域自治を守り育むための仕組みづくり |
| 8 | 新時代に向けたこれからの地域経営の仕組みをつくる | 総務 | 市民協働環境部 | <ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊の取組は、地域が元気になる。飯田市独自の「地域おこし協力隊」や「集落支援員」への設置に取り組まされたい。 中山間地域の「農業」を軸として、その発展性、可能性を広域連合及び地域(地元)とともに研究を進められたい。 中山間地域がいかに元気になったのか、成果をみられる指標を検討されたい。 中山間地域の魅力を「客観的に再発掘」する仕組みづくりに取り組まされたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 飯田市の「地域おこし協力隊」は、地域課題解決型で導入を進めています。引き続き各地区の取組の推進や課題解決に向けて、地域と協働していける制度として取り組んでいきます。 中山間地域の共通課題解決に向け、1年1点の重点対策を進めています。30年度は、庁内及び関係団体とも連携して産業振興策について研究を進めます。広域的には、市田柿や南信州牛、鳥獣害対策などで連携してきており、今後とも必要な協議・研究をしていきます。 2019年度(31年度)からの中山間地域振興計画の改訂に合わせて指標や仕組みについて検討してまいります。 | ①ふるさとパワーアップ! 20地区の個性を輝かせる(20地区「田舎へ還ろう戦略」支援事業) ④中山間地域をもっと元気にしてみまいか |

| 基本目標 | 委員会 | 主管部局 | 「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言 | 提言への対応状況の説明 | 関連する主な30年度戦略 |
|------|----------------------------|---------------|---|---|--|
| | | | | (考え方や事業計画・特筆すべき事項について記載) | 戦略名 |
| 9 | 個性を尊重し、多様な価値観を認め合いながら、交流する | 総務 市民協働環境部 | <ul style="list-style-type: none"> ・「基本目標9 個性を尊重し、多様な価値観を認め合いながら、交流する」の戦略に「女性」の文字がない。「誰もが」という言葉ですべてを包含するようだが、「女性」の文言を入れられたい。 ・あらゆる場面への女性が参画できる・するために「何をすべきか」について研究を進められたい。 ・市民に対して、「共に歩む社会づくり」のための学習の場（慣習やしきたりの見直しも含めて）の提供に努められたい。 ・外国人住民が飯田市内で生活するための知識や常識を習得し、かつ居住している地域のことを学習しながら地域住民と交流を進められる場の創出を検討されたい。 ・公共施設の多言語表記による外国人対応をさらに進められたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「誰もが」とは、あらゆる年代のすべての市民であり、人権が尊重される社会づくりを目指しています。 ・第6次飯田市男女共同参画計画の策定の過程で、市民参加の推進委員会や市の各部署において女性の参画について検討を進めてきました。その計画により、平成30年度から意識啓発などに加えて事業所訪問による働きかけや研修会などを実施していく中で深めていきます。 ・教育委員会や福祉課などとともに、「共に歩む社会づくり」の事業や講座を実施していますが、さらに地域、各種団体、事業所等と連携して、資料提供や講座の開設などを進めていきます。 ・平成29年度には、外国人住民のコミュニティと協働して、ごみの分別や税、国保についての学習会を開催しました。今後も身近なことを学習する機会を作っていきます。日本語教室については、公民館を中心に工夫を凝らして知識の習得や交流の場づくりに取り組んでいます。 ・関係部署と連携し、どのような表記が適当か引き続き検討を進めていきたいと考えています。 | <ul style="list-style-type: none"> ①誰もが安心して地域で活躍できる、ひと・まちづくり ④多様性を地域に活かす言語バリアフリー |

「平成28年度決算認定に係る施策評価等に関する提言」への対応状況

| 基本目標 | 委員会 | 主管部局 | 「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言 | 提言への対応状況の説明 | 関連する主な30年度戦略 |
|-----------------------------|-----|---------|---|---|--|
| | | | | (考え方や事業計画・特筆すべき事項について記載) | 戦略名 |
| 10 豊かな自然と調和し、低炭素な暮らしをおくる | 総務 | 市民協働環境部 | <ul style="list-style-type: none"> ・ポイ捨てに対する市民のモラル向上に努められたい。 ・新たな再生可能エネルギーの検討をされたい。 ・環境意識を醸成する人づくり・地域づくりを進められたい。 ・住民意識を高いレベルで維持、推進していくために、基本目標の実現に向けた、短期・中期・長期のプランニングを進められたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域や市民、事業者などのみなさんが、ごみゼロ運動や環境美化活動、不法投棄パトロールなど、献身的な取組みを継続しています。市民のモラルは高く、地道な活動は賞賛に値し誇りを感じます。ポイ捨ての発見通報件数は減少しています。一方で、モラルも常識もない者がポイ捨てをしており、監視カメラの活用や警察への通報など個別に対応を継続しています。飯田市ポイ捨て等防止及び環境美化を推進する市民条例について、毎年、全家庭に配布しているごみ・リサイクルカレンダーへ記事を掲載して広く周知を図っています。 ・地域環境権条例を行使した市民主体の再生可能エネルギー活用事業の水平展開を図るよう、各地域団体に事業実施を働きかけるとともに、事業計画策定等に関して積極的に支援し、持続可能な地域づくりに取り組んでいきます。 ・かみむら小水力(糺)が小水力発電所等の建設工事に着手できるよう、引き続き協働して進めます。また、新たな小水力発電事業についても検討を進めます。 ・太陽光発電設備並びに蓄電システムや太陽熱温水器の設置補助及び公共施設や一般家庭での木質バイオマス機器の導入拡大に向け、周知方法や窓口相談業務を工夫して取り組みます。 ・小学生に応募いただく「環境保全ポスター」では本年度から入選作品展を大規模店舗にも拡大しています。緑ヶ丘中学校と連携して「消費生活と環境」の授業も実施し、ごみの分別では環境衛生委員会等と連携して周知啓発をしました。エコハウスの講座は年間60回開催しており、飯田自然エネルギー大学への支援も実施して、環境意識の向上につなげています。 ・いいだ未来デザイン2028は、基本的方向を前期中期後期の4年単位とし、戦略的かつ重点的にテーマを掲げています。前期の基本目標「豊かな自然と調和し、低炭素な暮らしをおくる」に向けて、様々な環境教育や環境学習を展開するとともに、適切な環境情報を提供することで、より高い市民意識の醸成を図ります。 | <ul style="list-style-type: none"> ①環境学習の推進と環境意識を醸成する人づくり ②再生可能エネルギーで進める持続可能な地域づくり |

| 基本目標 | 委員会 | 主管部局 | 「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言 | 提言への対応状況の説明 | 関連する主な30年度戦略 |
|------|--------------------------|-----------|---|---|------------------|
| | | | | (考え方や事業計画・特筆すべき事項について記載) | 戦略名 |
| 個別計画 | 【個別計画】飯田市行財政改革大綱に基づく実行計画 | 総務 総務部 | <ul style="list-style-type: none"> 「飯田市行財政大綱に基づく実行計画」の「良質な行政サービスの提供」部分については、毎年評価をされたい。 子供から大人まで理解しやすいように、できるだけ行政用語を多用しない対応能力の向上に努められたい。 行政サービスのさらなる向上に努められたい。 市民意識調査以外にも、来庁者に対してアンケートをとるなど、現状を把握しやすい調査を実施されたい。 今後リニア関連事業の推進にあたり、市民に寄り添った市政の実行と、リニアビジョン実現に向け、職員の適正配置は、より一層確実に取り組まれたい。 変化の激しい市民生活に機敏に対応できる職員の育成を進められたい。 目指す職員像を明確に描かれたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 実行計画は毎年見直しを行い、3月に年度の取組状況及び次年度の計画を作成、公表しております。「良質な行政サービスの提供」につきましても、基礎世論調査、市民の皆さんで組織する行革推進委員会の意見などを踏まえて取組を進めてまいります。 新庁舎開設時に接遇向上のためのガイドラインを作成し、全職員コンシェルジュ宣言をしています。宣言の中にある接遇ポイントの一つに“来庁者(市民)目線、立場で対応する”ことを掲げ、「難しい言葉、専門用語、略語は使わない」としており、平成30年1月からはコンシェルジュ宣言を再認識する取組を進めているところです。職員研修においてもコミュニケーションの基礎となる接遇マナーや基本的なコミュニケーション技法を学ぶ研修を開催し、対応能力の向上に努めてまいります。 実行計画において新たに「もっと良くする1%改革」として、各職場での協議を踏まえた職員提案による市民サービスの充実、業務の改善・効率化などの取組を進めており、今後もより一層の行政サービスの向上に努めてまいります。 平成30年1月からコンシェルジュ宣言を再確認する取組を進めて、全庁的な接遇向上を図っています。この取組が終了した段階で、アンケート等の方法により検証してまいります。 リニア関連事業の推進にあたっては、住民に寄り添った対応が重要と捉え、迅速かつ有効に対応していくためにリニア推進部の体制強化を予定しています。また、全体の職員配置については、現在の定員を基本としつつ業務量の増減に応じた適正な配置に引き続き努めてまいります。 いいだ未来デザイン2028及び行財政改革大綱の方針を踏まえ、目指す職場と職員像を庁内で議論し、現在、新たな人材育成基本方針を策定しており、その中で目指す職員像についてもお示していきます。 | 【個別計画】飯田市行財政改革大綱 |

「平成28年度決算認定に係る施策評価等に関する提言」への対応状況

| 基本目標 | 委員会 | 主管部局 | 「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言 | 提言への対応状況の説明 | 関連する主な30年度戦略 |
|------|--------------------------------|-------------|--|---|---|
| | | | | (考え方や事業計画・特筆すべき事項について記載) | 戦略名 |
| 3 | 地育力が支える学び合いで、生きる力をもち、心豊かな人材を育む | 社文 教育委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中山間地等それぞれの地域事情に適応した学校づくりに取り組まれない。 ・ ICT教育の推進におけるマイナス面・弊害部分に対する理解と対策に取り組まれない。 ・ 教職員への負担増大が予想されるなか、支援の拡充を進められない。 ・ コミュニティスクールによる公民館等地域との連携に加え、高校生や大学生を加えた交流を検討されたい。 ・ LG飯田教育の研究を進め、具体的な事業として取り組まれない。 ・ 学校の部活動については、当事者の声を反映させるよう取り組まれない。 ・ 不登校対策の充実を図られない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての学校に飯田コミュニティスクールを設置し、学校、保護者、地域住民が一体となった学校づくりに取り組んでいます。今後も、飯田コミュニティスクールのスムーズな運営を通じて、地域に根差した特徴ある学校づくりを進めていきます。 ・ 飯田固有の教育課題の解決に向け、モデル3中学校区にてICT教育の実践と検証に取り組んでいます。今後も、実証研究の成果や課題を確認・共有しつつ、ICTを活用した授業を通じて子ども達の主体性や授業が実施できるよう、支援します。 ・ 教員の長時間勤務等の負担軽減は、教員が子どもと向き合う時間を増やし、より質の高い授業を創造していくための重要な取組です。校長会や教頭会など学校と連携しながら、負担軽減に向けた具体的な取組等について検討し、実施します。 ・ 中学校の放課後学習会に飯田女子短期大学の学生が参加して学習の補助をする取組や、地域人教育を通して小学生や中学生が高校生と交流する取組を実施しています。これらの取組を水平展開できるよう、学校も含めて検討を進めます。 ・ LG(地域・地球)飯田教育の推進に向け、今年度教頭会にプロジェクトを設置し、検証を重ねています。また、今年度「LG飯田こども未来事業」を創設し、各校でのLG飯田教育の取組を支援しています。LG飯田教育では、ふるさと学習に地域と世界との比較やつながりなどグローバルな視点の学びを取り入れた教育を、平成29年度から全小中学校で実施しました。 ・ 部活動のあり方は、教員の働き方改革にも通ずる重要な課題です。学習者本位の精神に基づく適切な活動に向け、各校の状況や意向を踏まえながら30年度に検討していきます。 ・ 不登校対策に向けて、教育支援指導主事や中間教室の設置など支援体制の充実や、小中連携・一貫教育の推進などを通じて対応しています。一方で複雑な要因が絡む不登校児童生徒も増加しているため、スクールカウンセラーなど専門機関とも連携しながら、個々の状況に応じた支援や対応を図ります。 | <ul style="list-style-type: none"> ①飯田らしい小中連携・一貫教育の推進 ②地域と学校がつながる飯田CSの立ち上げと推進 ③LG(地域・地球)飯田教育の充実 ④ICTを活用した教育課題への対応 |

| 基本目標 | 委員会 | 主管部局 | 「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言 | 提言への対応状況の説明 | 関連する主な30年度戦略 | |
|------|--------------------------------|------|--------------------------|---|---|---|
| | | | | (考え方や事業計画・特筆すべき事項について記載) | 戦略名 | |
| 3 | 地育力が支える学び合いで、生きる力をもち、心豊かな人材を育む | 社文 | 教育委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学生・高校生を中心に、地域の祭・行事に参加することを推進する取り組みを進められたい。 ・「地域を知るための副読本」を活用されたい。 ・飯田OIDE長姫高校で行われている「地域人教育」の水平展開を進められたい。 ・市民の学習意欲向上が地域の活性化につながるよう、学びたい時に身近に触れられる学べる環境整備に取り組まれたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学生の時に地域のお祭りや行事に参加した子どもが中学生や高校生になっても地域に関心を持つことが大事だと考えます。実際、各地区の運動会や文化祭に中学生、高校生が実行委員として関わるなど、地域行事への参加が進んでいます。今後も地域事業への参加を推進します。 ・地域が独自にいわゆる学習本を作成し、学校に寄贈いただいています。また、市としても小中学校の副教材「私たちの飯田市」を3年に1度ずつ改訂しています。これらを総合の時間、社会科、理科等でさらに活用することに努めていきます。 ・飯田OIDE長姫高校の、地域への理解と愛着を深め、地域の担い手・支え手として活躍していく意識と力を養う教育を、各高校へ展開するため、各高校のキャリア教育担当教諭が会する情報意見交換会を、学輪IIDA「域学連携」と連携して継続開催します。 ・公民館、図書館、美術博物館、歴史研究所等における教育学習事業の充実や、学習支援機能の連携強化等を通じて、市民の学習要求への対応や学習意欲の向上に努めます。 | <ul style="list-style-type: none"> ②地域と学校がつながる飯田CSの立ち上げと推進 ③LG(地域・地球)飯田教育の充実 ⑤高校生等を対象とした次世代育成事業の推進 |
| 4 | 自然と歴史を守りいかし伝え、新たな文化をつくりだす | 社文 | 教育委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化会館をはじめとする3ホール施設のあり方について、リニア時代に活かす、文化芸術の拠点となる施設の将来像を提示していくべきではないか。 ・「小さな世界都市」を標榜する中、その具体像は見えてこない。「小さな世界都市」の具体像を市民が知る機会として、平成30年度に開催されるAVIAMA総会、世界人形劇フェスティバルの開催を捉えて、外国向けの情報発信、外国人観光客の受け入れ態勢づくり、受け入れる市民意識の向上など、リニア時代を見据えた取り組みを進めてはどうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ホール施設については、南信州広域連合が県に要望しているコンベンション施設の検討と並行して協議を進めていきます。 ・人形劇の祭典が始まり40周年となる平成30年度に開催する世界人形劇フェスティバルとAVIAMA総会は、「小さな世界都市」としての歩みにおける重要な節目となるため、この機会をとりえ次のような取組を行います。 ・AVIAMA総会の一部を一般公開し、人形劇を通じた国際平和や世界の人形劇文化の振興に向けた取組を広く紹介します。 ・いいだ人形劇フェスタでは、英語版HPの運用、中学校区単位での海外人形劇公演を行い、リニア時代を担う子どもたちに外国の文化に触れる機会を提供するとともに、劇団の出身国の文化や産業などを事前学習する機会、劇団に飯田の文化を紹介する機会を作るなど国際交流の場を提供します。 ・外国人向けに飯田を写真で紹介するサイト「Visit Iida」を構築し、情報発信を始めます。また、来飯した外国人が飯田の情報を広く発信してもらえるように、市内10カ所にWi-Fi環境を整備し運用開始します。 ・南信州観光公社と連携し、農家民泊を紹介するHPを多言語化し、外国人観光客の受入態勢づくりに取り組みます。 ・訪日教育旅行の受入を推進し、小中学生との交流機会の提供に努めます。 | <ul style="list-style-type: none"> ③人形劇の世界都市としての推進力・求心力の向上 |

「平成28年度決算認定に係る施策評価等に関する提言」への対応状況

| 基本目標 | 委員会 | 主管部局 | 「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言 | 提言への対応状況の説明 | 関連する主な30年度戦略 |
|------|---------------------------|-------------|--|---|--|
| | | | | (考え方や事業計画・特筆すべき事項について記載) | 戦略名 |
| 4 | 自然と歴史を守りいかし伝え、新たな文化をつくりだす | 社文 教育委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流人口を増やし、外貨獲得につなげるためにも、飯田の歴史・文化の保存・伝承に留まらず、効果的な情報発信に取り組まれない。 ・ 情報発信という意味からも、活動の拠点となる施設、エリアの整備が求められており、「地域振興の知の拠点」の整備に取り組まれない。 ・ 地域資産が活用されることを前提とした視点が必要であり、活用するためには、地域資産をどう保存し、伝承していくことが有効であるか、地域資産の対象別に、保存・伝承方法について研究検討を進められたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・伊那谷・飯田の自然・歴史・文化のもつ価値や魅力を、各種媒体を活用して情報発信します。30年度には、恒川官衙遺跡のガイダンス機能を有する史跡公園や、名称天龍峡のガイダンス施設の整備に向けた取組を進めます。 ・歴史研究所が仮移転中であるが、将来に向けて美術博物館、中央図書館等とともに、地域振興の知の拠点を構想していきます。 ・自然、人文、歴史、考古、美術等の各分野の資産の特性を把握・考慮しながら、美術博物館、歴史研究所、中央図書館、生涯学習・スポーツ課(文化財部門)を中心に、各資産の調査研究と保存・継承・活用の取組を行います。 | <ul style="list-style-type: none"> ②国指定の史跡名勝の保存・整備・活用 ⑤遠山郷の魅力の顕在化と情報発信 |
| 5 | 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる | 社文 健康福祉部 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 相生市の「子育て応援都市宣言」、流山市の「母になるなら流山」といったキャッチフレーズと共に、具体的な数値も含めて本市が子育てに最適な地域であることを発信すべきではないか。 ・ 国が平成32年度末を目標とし、飯田市も進めようとしている「子育て世代包括支援センター」設置の早期実現を図る。 ・ 具体的施策 <ul style="list-style-type: none"> ① 第3子以降の保育料無料化に取り組んではどうか。 ② 子どもの健康を守るため、中学生などの食生活をチェックするとともに、血液(糖尿)検査を導入してはどうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然環境を生かした子育て、地域が応援する子育ての魅力、支援体制の充実度など、生育ステージに沿った「子育て環境の上質さ」と、合計特殊出生率が全国的に高位にある状況(飯田市H28年度1.75、県1.59、国1.44)などを、市民の皆さんをはじめ全国に発信していきます。 ・子育て相談支援として、27年度に「こども家庭応援センター」を設置し、国に先駆けて先進的な支援を行うとともに、センターの機能拡充も進めてきています。 ・29年度から母子健康手帳交付時の保健師による面談を開始し、30年度からは「母子保健コーディネーター」を配置することで、「こども家庭応援センター」をコアに、国基準の「母子保健型の包括支援センター」機能を果たし、妊娠期からの途切れのない支援を実現します。加えて、飯田市の特徴である18歳までの総合的支援と連携します。 ①国の人づくり革命として2020年までに3歳以上児の保育・幼児教育の無償化が検討されているところであり、動向を注視していきます。 ②給食だより等を通じて咀嚼の大切さや食生活の重要性を伝えています。また、学校では学年を指定して児童生徒生化学検査を任意実施しており、必要に応じて指導や専門医への受診勧奨を行っています。 | <ul style="list-style-type: none"> ①信頼と絆で応援、安心・健康な子育てのまちづくりの推進 |

| 基本目標 | 委員会 | 主管部局 | 「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言 | 提言への対応状況の説明 | 関連する主な30年度戦略 |
|------|-------------------------|-------------|---|---|--|
| | | | | (考え方や事業計画・特筆すべき事項について記載) | 戦略名 |
| 6 | 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす | 社文 健康福祉部 | <ul style="list-style-type: none"> 健康診査の結果などのデータベースを活用し、市民への「見える化」を進めることにより、市民の健康づくりに対する意識を高めるよう取り組むべきではないか。 特定健診の受診率向上につなげるため、健康づくりを自治組織等の地域活動として取り組んではどうか。 男性が高齢化すると外出機会が減る傾向がある中で、諸活動への参加を促し、外出機会を増やすよう取り組んではどうか。 | <ul style="list-style-type: none"> 現在も健診結果やレセプト情報などから市民の健康課題の分析を行い、保健事業を推進しています。今後は分析結果をわかりやすく公表するなど、市民の健康づくり意識の向上を図ります。 市民の主体的な健康増進の取組がさらに進むよう、地域健康ケア計画と連携して、データの分析結果を活用した具体的な事業を展開します。 これまでもまちづくり委員会との協働によりがん検診申込書の回収など地域ぐるみで健康づくりに取り組んでいます。今後は市民が主体的に、受診を誘い合える環境づくりなど、地域の皆様と協議しながら受診率の向上への取組を進めます。 高齢者の健康づくりに向けて、外出の機会を増やすことが大切な視点と認識しています。男性のコミュニケーション力を高め、仲間づくりに「主体的に巻き込まれる」環境づくりに向け、「農愉快」プロジェクトなどの実績も糧に運動や交流の場・健康講座を工夫して開催します。また、ニュースポーツの普及や身近となったマレットゴルフなど具体的な楽しみ方の提案を通じて、高齢者の新たな参加機会を創出します。 | <ul style="list-style-type: none"> ①地域、家族とともに進める健康づくり ②介護予防の推進 ④歩こう動こうプラステン(+10分) |
| 7 | 共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる | 社文 健康福祉部 | <ul style="list-style-type: none"> 地域福祉コーディネーター等人材の育成に取り組まれない。 マイナンバー制度の地域福祉への利活用について検討をされたい。 安心安全に暮らすため、地域における見守りに適する事業者との連携に取り組まれない。 | <ul style="list-style-type: none"> 市社協の地域福祉コーディネーターは、県社協主催の育成講座などにより、専門性を高めています。また、地域福祉コーディネーター等のスキルアップに向けて、行政機関や専門機関の新たな情報が共有されるよう市と社協を中心に連携機能を高めていきます。 地域内の人材確保に向けては、各地区が主体となり「地域福祉学習会」を開催しており、これらの活動を支援しています。 マイナンバーは、災害時における被災者(生活弱者)の生活再建支援に活用可能であり、緊急的・集中的な情報収集により福祉対応の機動性を高めることが可能です。住民を主体とする地域福祉に関しては、法定の枠外であることから、現時点では独自の活用方策を見出すことは難しい状況にあります。 配達等に係わる事業者と見守り協定を結ぶことで、地域での共助を応援していきます。29年度中に3事業者と締結し、今後も他事業者への拡大に努めていきます。 30年度から、ごみ出し支援に取り組む社会福祉事業者を支援します。 | <ul style="list-style-type: none"> ①多様な主体による日常生活における支援 |

「平成28年度決算認定に係る施策評価等に関する提言」への対応状況

| 基本目標 | 委員会 | 主管部局 | 「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言 | 提言への対応状況の説明 | 関連する主な30年度戦略 | |
|------|-------------------------|------|--------------------------|--|--|---|
| | | | | (考え方や事業計画・特筆すべき事項について記載) | 戦略名 | |
| 7 | 共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる | 社文 | 健康福祉部 | <ul style="list-style-type: none"> 福祉相談窓口の一本化(ワンストップサービス)を進められたい。 民生児童委員への支援策を検討されたい。 子どもの貧困の連鎖を断ち切るため、教育現場とのさらなる連携に取り組まれたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 福祉事務所を構成する3課(福祉課、子育て支援課、長寿支援課)の窓口を機能的に共通窓口と位置づけ、来庁者が移動することなく複層的な相談ができる仕組みとしています。今後も、市民が相談しやすい窓口を目指し、必要な改善に努めます。 地区民児協に、社協の地域福祉コーディネーターや地域包括支援センター職員、市の保健師他担当職員が同席し、課題を共有することで委員の活動を支援しています。災害対応の安全確保策としてのヘルメット貸与、健康管理のため健診費用の助成など、独自の支援事業は全国的にも評価されています。今後も、機能連携の向上を図る中で課題解決型の支援を研究していきます。 日常業務の中で、個別ケースの把握、相談から支援に、教育現場をはじめ関係部署、関係機関と連携してあたっています。 ひとり親家庭の子どもが進学・就職の夢を叶えるため、市民団体による学習支援事業について支援していきます。 子どもの居場所づくりなどに関するネットワーク組織が、30年1月「南信州子ども応援プラットフォーム」として組織化されことから、新たな機関とも連携し、生活困窮世帯の子どもへの課題解決に向けて必要な役割を果たします。 | <ul style="list-style-type: none"> ①多様な主体による日常生活における支援 5-①信頼と絆で応援、安心・健康な子育てのまちづくりの推進 |
| 1 | 若者が帰ってこられる産業をつくる | 産建 | 産業経済部 | <ul style="list-style-type: none"> 「I-PORT」はインキュベート機能であると同時に、内貨循環を高める役割であることを前面に出すべき。設置がより広く認識されとともに、しっかりと活用されるための体制づくりを進められたい。 企業誘致や、起業支援に繋がるよう、空き店舗等も含めたいわゆる産業用地に関する情報を整理し、発信していく体制づくりに取り組まれたい。 若者が帰ってこられる産業をつくることを目標とするならば、「若者の志向する産業(就職口)とは何か」を捉え、地域産業の実態との乖離等を勘案し、その上で政策的に何を支え、育むか取り組まれたい。 | <ul style="list-style-type: none"> I-Portが支援する事業を報道機関等を通じて積極的に公表するとともに、支援の状況についても周知しています。また、I-Portの仕組みを告知するパンフレットを作成し、各支援機関の窓口を設置するとともに、イベントなどを通じて、直接的な啓発の機会を設けています。 新規立地や事業拡大を計画する企業のニーズに対してタイムリーな情報提供ができるように空き工場や工場適地等に関する情報を収集・整理しています。また、企業訪問などを積極的に行って情報を発信し、企業誘致や企業の事業拡張を引き続き支援していきます。 商店街の空き店舗へ起業や新事業展開を目指す若者等を誘導するため、ビジネスプランコンペディションやI-Portなどの起業支援と連携して「まちなか創業空き店舗活用事業」により支援しています。また、空き店舗情報を収集・整理するため、中心市街地の実態調査を実施しています。 Uターン就職を推進するため、高校生と地元企業との結びつきを一層深める交流型のモデル事業を平成30年度から導入します。長期にわたる継続的な交流から、企業の認知度を高め、若者の思考動向を理解することで、採用につながる環境を整えていきます。 | <ul style="list-style-type: none"> ②新たな産業分野、地域産業の高付加価値化への挑戦 ③地域産業の担い手確保 ④産業用地の整備と戦略的な企業誘致の推進 |

| 基本目標 | 委員会 | 主管部局 | 「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言 | 提言への対応状況の説明 | 関連する主な30年度戦略 | |
|------|------------------|------|--------------------------|---|--|------------------|
| | | | | (考え方や事業計画・特筆すべき事項について記載) | 戦略名 | |
| 1 | 若者が帰ってこられる産業をつくる | 産建 | 産業經濟部 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業従事者の労働力の軽減や所得向上にむけ、学術機関などと連携し、農業のICT化について調査研究に取り組まれたい。 ・ 技能労働者の育成、後継者の確保の観点(空家の利活用の観点)から、在来工法家屋の修繕を奨励する施策に取り組まれたい。 ・ 農業後継者の育成特に、人材育成のための投資と農業後継者のネットワーク化など、魅力ある農業を目指す取り組みなども検討されたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業分野におけるAI、IoTの活用による省力化技術の導入は、今後ますます必要になると考えています。具体的には、地区の若手農業者のグループなどにおいて、温度や湿度の状況を常時監視して一定の数値になるとスマートフォンに知らせる機能をもつシステム機器の導入が始まっており、農業振興センターが支援を行っています。そのような取組の成果等を踏まえながら、今後、生産団体とともに、さらに研究すすめていきます。 ・ 技能労働者の育成、後継者の確保については、関係団体や関係機関等と定期的に懇談会を設けて取り組んでいます。引き続き懇談会を継続するとともに、空き家改修に関する事業やリニア関連に伴う住宅づくりに対して技能労働者が参入し、活躍できるように、民間事業者や関係各課等が連携していきます。 ・ 農業研修生住宅等(お試し住宅)を活用した、就農希望者を受け入れられる体制づくりに取り組みます。また、地区農業振興会議において、認定農業者を中心としたネットワーク活動が行われており、農業後継者の活動の輪がさらに広がるよう、引き続き農業振興センター等で支援していきます。また、意欲を持ってステップアップしていただけるような営農モデルの調査研究を行います。 | ③地域産業の担い手確保 |
| 1 | 若者が帰ってこられる産業をつくる | 産建 | 産業經濟部 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな産業振興の拠点形成が地域産業の高度化に繋がる具体的な施策を展開し、精密・電子・機械加工・金型技術などをベースにした新たなチャレンジに繋がる政策がないかを検証されたい。 ・ リニア工事等の進捗による産業界に与える影響について、検討を始められたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ (公財)南信州・飯田産業センター、工業技術センター及び飯田EMCセンターを移転拡充し、公的試験機能を高めた研究開発支援や高度な人材育成、異業種連携、インキュベート機能などを高める拠点づくりに取り組んでいます。今後地域内企業と連携を図る中で検証に努めていきます。 ・ 建設工事の進捗や工事量の増大により、地域外からの技能労働者や作業員等の建設関係従事者の流入が想定されます。卸、小売サービス業におけるビジネスチャンスを活かせるように、飯田商工会議所と連携して対策・対応していきます。また、建設工事にかかる商用旅行とともに、観光旅行の目的地化を着実に進めていきます。しかし、建設工事にかかる労働需要により、地域内産業における人手不足がさらに進むことが懸念されるため、注視していきます。国道153号線付け替えにともなって、現地での事業継続が困難となり、移転を余儀なくされる事業者が多く発生すると見込んでいます。このような場合における設備需要に対応するため、新しい制度資金である「リニア移転対策資金」を新設しています。リニア本線工事等の代替地確保による農地の減少、該当する農地所有者の農業離れが懸念されます。農地所有者の意向を確認するとともに、農地流動化を積極的に調整していきます。 | ①「新たな産業振興の拠点」の形成 |

「平成28年度決算認定に係る施策評価等に関する提言」への対応状況

| 基本目標 | 委員会 | 主管部局 | 「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言 | 提言への対応状況の説明 | 関連する主な30年度戦略 | |
|------|---------------------------|------|--------------------------|---|--|--|
| | | | | (考え方や事業計画・特筆すべき事項について記載) | 戦略名 | |
| 2 | 「飯田市への人の流れをつくる」 | 産建 | 産業経済部 | <ul style="list-style-type: none"> ・「小さな世界都市」構築に向け、まずは案内標識などから、デザインコード(デザイン方針)の研究を始められたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅周辺整備基本計画の環境・景観部会において、「伊那谷らしさ」の検討を行ってきました。今後は事業の進捗にあわせて、必要な案内のデザインコードをまとめるとともに、それを市内から伊那谷へと段階的に拡大していくことが重要であると考えています。まずは、リニア駅周辺整備にかかる専門家の意見も踏まえながら、このあり方について研究していきます。 | |
| 2 | 「飯田市への人の流れをつくる」 | 産建 | 産業経済部 | <ul style="list-style-type: none"> ・紙媒体(広報いいだなど)と電子的情報(SNSなど)の使い分けを効果的に図る。特に紙媒体は限られたスペースでどのような情報を発信するのがベターなのかを精査。また「暮らしの情報」と「政策の発信」はそれぞれの発信手段が適切かも精査し、一定のコスト負担を念頭に置きながら民間媒体に掲載する方法も検討されたい。 ・20地区での「田舎へ還ろう戦略」の取り組みが始まる今、地区での取り組み情報にあわせ、地区の魅力や、観光情報、学校行事など、各地区の情報を総合的に発信するようなコンテンツづくりに取り組まされたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報の種類による紙媒体と電子的媒体及び発信手段の使い分けは、技術動向や有効性、民間媒体との連携・役割分担などを念頭に、今後とも検討していきます。 ・これまで「IIDA」の魅力を知っていただくために、メディア、ファクトブック(へー図鑑・絵巻物)、各種WEBサイト等の発信手段を組合せながら取組を進めてきています。今後、国内外の人が「IIDA」の多様なヒト・コト・モノに関心を持ち、行ってみたいと思える情報を発信していくため、「田舎へ還ろう戦略」の取組と連携し、情報の種類や内容、ターゲット、手法等をよく検討し、効果的な情報発信(プロモーション)ができるように取り組んでいきます。 ・田舎へ還ろう戦略の取組の一つであるふるさと納税「飯田市20地区応援隊」では、地区における取組やイベント等の情報発信を随時できるように、新たなホームページの作成を行いました。関係人口の拡大に向けて魅力的な発信となるよう各地区の検討を推進します。 | <ul style="list-style-type: none"> ①飯田だから実現できるライフスタイルの提案 ③地域ブランドの構築と飯田の魅力が伝わるプロモーション |
| 11 | 「災害に備え、社会基盤を強化し、防災意識を高める」 | 産建 | 建設部 | <ul style="list-style-type: none"> ・現在の防災訓練について、訓練のための訓練になっていないか、との声があることから、マニュアルなどの見直しも含め、それぞれの地区の実情に合った訓練の方法を、自主防災会などと協働し検討し、防災訓練のあり方を見直すことも検討されたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度に全地区で地区防災計画の策定を終え、それに基づき地区ごとに土砂災害及び地震を想定した防災訓練を毎年実施している。市としては訓練計画書の雛形を提示し、より訓練が実践的に行われるよう支援を行ってきています。 ・引き続き各地区自主防災会が主体的かつ効果的な訓練ができるよう自主防災会からの相談に応じながら見直しを図っていきます。 | <ul style="list-style-type: none"> ①命と生活を守る市民防災力の向上 ②みんなが安心して暮らせる防災・減災のまちづくり ③緊急・災害時の情報伝達や収集機能の向上 |

| 基本目標 | 委員会 | 主管部局 | 「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言 | 提言への対応状況の説明 | 関連する主な30年度戦略 | |
|------|---------------------------|------|--------------------------|--|--|---|
| | | | | (考え方や事業計画・特筆すべき事項について記載) | 戦略名 | |
| 11 | 「災害に備え、社会基盤を強化し、防災意識を高める」 | 産建 | 建設部 | <ul style="list-style-type: none"> ・下水道事業は維持の時代に入っている。本格的な維持の時代を見越し、施設の維持管理(存続)に關しどのように対応していくか検討を始められたい。 ・生活環境の保全および公衆衛生の向上を図る視点から、合併浄化槽の維持管理に關し県との役割を明確にしつつ取り組まれたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2018～2020年度(平成30～32年度)において、長寿命化計画以降の新たな重点事業計画となるストックマネジメント計画を策定します。ストックマネジメント計画では、施設ごとの重要度及び不具合による被害規模と発生確率等からリスク評価を行い、施設の劣化状況調査による劣化度のデータベース化により、管理、整備目標の設定を行います。2021年度(平成33年度)からは、ストックマネジメント計画に基づく修繕・改築、施設整備を実施していきます。 ・合併浄化槽維持管理となる保守点検、清掃についての改善命令等(法第12条)の維持管理の指導・勧告は県の役割です。市は、清掃補助金の交付、適正維持管理に向けた啓発活動を行うことで、公共用水域への環境負荷低減に取り組んでいきます。 | <ul style="list-style-type: none"> ④災害時にも都市機能が維持できる社会基盤の戦略的強靱化 【個別計画】第1次飯田市下水道事業経営計画 |
| 12 | 「リニア時代を支える都市基盤を整備する」 | 産建 | リニア推進部 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後、リニア・三遠南信自動車道関連の事業推進のために建設関連費が集中していく中、市民生活や安全にとって要望の高い道路・河川予算措置についてどのように棲み分けていくのか一定の方向を定め、地域全体の道路河川整備に不足が生じないことを考慮されたい。 ・各自動車メーカーでは、自動運転システムの実用化に向け研究開発が進んでいる。リニアが開業する10年後を見据えて、自動運転による新交通システム活用に向けた研究を検討されたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後のリニア・三遠南信自動車道関連事業の路線の整理及び概算事業費を算出し見通しを立てました。関連以外の通常事業である、市民生活に密着した現行施設の維持管理及び市民生活や安全確保の要望が高い道路・河川の効果的な予算措置については、今後も例年と同規模の予算を確保していきます。 ・リニア開業を見据えて、自動運転等の新たなモビリティのまちづくりを考えていくことは重要と認識しています。伊那谷自治体会議等と連携を図りながら、リニア駅周辺整備と合わせ、高度なトランジットハブの形成、二次交通のあり方等の研究を、自動運転の導入に係る国の法整備等の情報を収集しながら進めます。 | <ul style="list-style-type: none"> ②駅勢圏(駅の利用が見込まれる地域)拡大に向けた道路ネットワークの強化 ⑤リニアの二次交通の構築及び持続可能な地域公共交通の実現 |
| 12 | 「リニア時代を支える都市基盤を整備する」 | 産建 | リニア推進部 | <ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅を取り巻く周辺の土地利用方針策定において、立地適正化計画と併せ、都市計画の視点から市側の考えを積極的に示されたい。 ・外部からの交流人口増加を推進するための、市全域に渡るデザインコード(デザイン方針)について検討を進められたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・リニア関連事業の関係機関や地域との協議等を行いながら、土地利用基本方針等の変更案とそれに基づく都市計画等の変更案をまとめ、平成30年度内に都市計画の変更・決定等の法令の手続きを進めます。 ・リニア駅周辺整備基本計画の環境・景観部会において、「伊那谷らしさ」の検討を行ってきました。外部からの交流人口増加を推進するための、市全域に渡るデザインコードの検討は必要であると認識しています。まずは、リニア駅周辺整備にかかる専門家の意見も踏まえながら、このあり方について研究していきます。 | <ul style="list-style-type: none"> ③リニア時代を見据えた良好な土地利用の推進 |